

## ヒト受精胚・人クローン胚の作成・利用に関する検討メモ

平成16年4月6日

## 1. ヒト受精胚の研究目的の作成

## (1) 生殖補助医療研究目的のヒト受精胚の作成

研究目的のみの採卵はほとんど行われていない。

未受精卵の使用

・非受精卵

・摘出した卵巣や卵巣切片からの正常卵子の採卵

## (2) 難病研究目的のヒト受精胚の作成について

ゲノムインプリンティング等については、動物実験においても不明な点が多い。

ヒトのことはヒトを調べなければわからないが、ヒトの初期胚についてはほとんど調べられていない。

## (3) 母体への浸襲性

## (4) パブリックコメントの受け止め方

## 2. 人クローン胚の作成

## (1) 体性幹細胞を用いた再生医療の研究

体性幹細胞は個体で成長してきた歴史を持つ細胞である点で、再生医療への応用において、より安全性が高い。(意見)

E S細胞の方が優れている分野もある。(意見)

## (2) ヒトE S細胞を用いた再生医療の研究

E S細胞を使った前臨床研究等が実施されている。

セルソーター等により細胞を選別した後で移植すると、テラトーマは形成されなかったとの報告。

卵母細胞と類似した細胞の報告。(作成容認の是非。)

卵子を使った体細胞核移植が必要。(意見)

## (3) 動物クローン胚の研究

動物のクローン個体において、遺伝学的、非遺伝的にあらゆる異常が生じる可能性がある。

( ヒト胚研究の前提の一つとして、動物を用いた研究において、何が、どの程度まで解明されなければならないのか。)

## (4) パブリックコメントの受け止め方